

第2回遺伝子組換え生物小委員会での主な意見

論点 1 遺伝子改変生物に特有の問題はあるか

大量に使用される、別の環境で使用されることにより問題が生じるおそれがある
組換えによって生じる影響と組換え体の利用による影響は分けられるか
外来種による影響をどう管理するのかという問題と一緒に考える必要がある

論点 2 生物多様性への影響の考え方

微生物が環境中に放出される場合の評価は決定的に難しい
生物多様性への影響には、人と自然との関係を含めて考える必要がある
遺伝子改変生物による影響は、それを使う技術と一体として評価されるべき

論点 3 リスク評価の在り方

リスク評価はサイエンスであるべきで、国際的に共通の項目で実施すべき
リスク評価に際しての専門家の委員会は、行政のリソースが足りない現状では不可欠
委員会の中立性は重要

論点 4 リスク評価を踏まえた決定の在り方

決定にかかる判断の合理性、公正性、透明性の確保が必要
リスクと便益は相対論では整理できない
リスクと便益はタイムスケールが違うので同列には比較できない
リスクがよくわからない場面の判断には市民も含めたコンセンサス会議等を活用して判断することが必要
代替手段の検討、緊急の公益侵害への対応といった観点も決定には必要
利用後の原状回復が困難なことから、慎重な態度が必要。隔離して利用する段階から徐々にモニタリングをしながら進めるべき